

英語指導員・ミュージシャン・The Watanabes ヴォーカル

ダンカン・ウォルシュさん

川崎市の友好都市シェフィールド市にあるシェフィールド大学卒業

◆イギリス出身

初めて会った瞬間からすぐ打ち解けられる、明るい雰囲気のだんかん・ウォルシュさん。出身校の友好都市である川崎にも興味を持っており、当協会のインターナショナル・フェスティバルにも参加しました。現在、JETプログラムを通じて都内の小学校で英語を教えるかわら、音楽好きな仲間たちとバンド活動をしているそうです。(JETプログラム: 語学指導等を行う日本政府の外国青年招致事業)

日本に来られたきっかけは?

イギリスにいた頃、自宅に遊びに来た日本人の知人が、家の様子や食事の何もかもを珍しがって写真に撮っていました。その時、「日本はそんなに違う国?」と大変興味がわき、JETプログラムに参加して、2005年に愛媛県に着任しました。

現在の活動の様子を聞かせてください

2007年から江東区の小学校で英語指導をし、週末はバンド活動をしています。

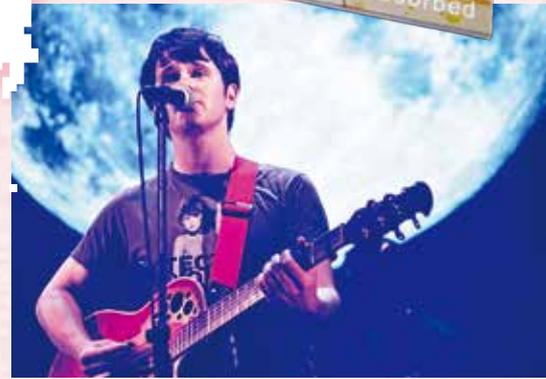
授業では、子どもたちが楽しく英語を学べるような工夫をしていますが、子どもたちは間違いを恐れず、とても積極的です。

バンドはメンバー5人(4ヶ国出身)で、2011年には2枚目のCDをリリースし、日本テレビや毎日新聞にも取り上げられました。演奏や作曲は、13歳の頃兄の影響で始めました。

イギリスと日本の違いを感じることは?

一番強く感じるのは、日本にはたくさんのルールがあることです。来日して8年しても、まだまだ学ぶことがたくさんありますが、面白いです。たとえば…

- 愛媛で生け花を習ったとき、花の生け方にひとつひとつルールがあることを知って驚きました。(私は自分の感じたままに生けようと思いました。)
- 学校では、校長先生より先に帰る時、先生方は「お先に失礼します。」とお辞儀をして挨拶します。(イギリスでは「ハイ、グッバイ。」と軽く手を振るくらいです。)
- パーティでは、ビールを注がれてもみんなで乾杯するまで待ちますね。(私はすぐ「サンキュー」と飲んでしまいました。)
- スポーツ観戦の態度がとても違います。典型的な例がサッカーです。自分の応援するチームの選手がミスすると、イギリスではファンは怒り狂いますが、日本ではその選手を「がんばれ」と励まします。これは信じられません。



- 子どもたちの態度や生活も違います。日本の子どもたちの方が先生を尊敬しているように感じます。放課後は、イギリスの子どもたちはすぐ帰宅して地域のスポーツクラブなどへ行きますが、日本ではクラブ活動をしてから帰宅し、塾に行く子どもが多いですね。

今後の予定や希望は?

音楽に関しては、新しいアルバムを4月頃にリリースするため活動中です。また、今年はプロモーションビデオを作りたいと考えています。夢は、自分が作った曲が使われている映画を見ることです。

英語教育については、英・シェフィールド大学でPGCE(公立学校教員免許状)を取りたいです。

毎日元気な小学生たちと接するのは楽しいし、兄や仲間との音楽活動も活発で、日本に来て本当によかったと思っています。

イギリスと日本というまったく違う文化の中で、日々出合う戸惑いにも興味を持って楽しんでいる様子でした。インタビューは異文化についての楽しい意見交換の場にもなりました。

(取材・文: 編集ボランティア 小島俊彦)

